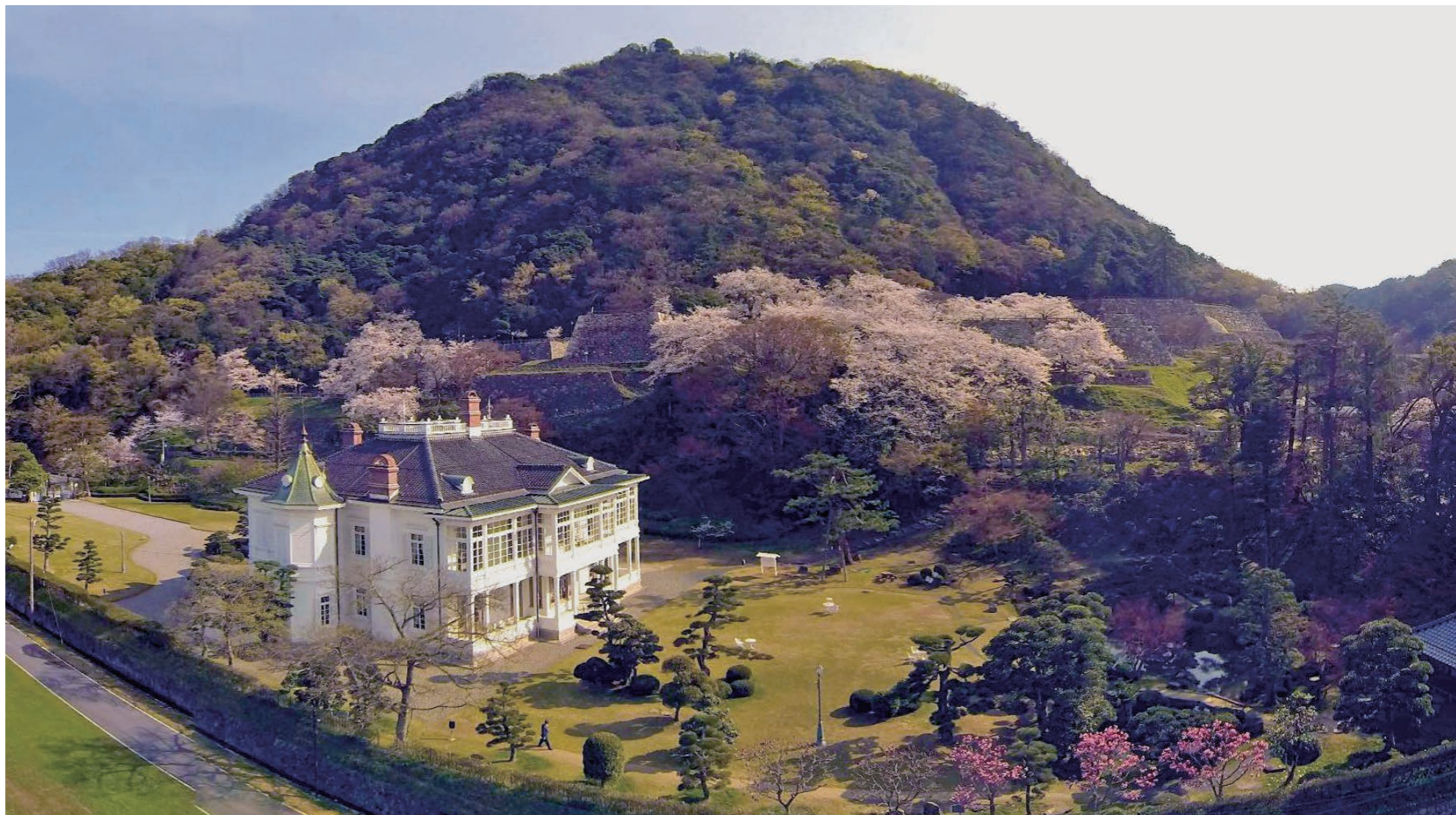


今に伝わる鳥取城の歴史

鳥取城に関する出来事

年代	出来事
16世紀中ごろ	因幡山名氏、但馬山名氏のいずれかによって築城
1562年	武田高信が久松山を拠点として、当時因幡を支配していた山名氏に反逆
1573年	武田高信を退けた山名豊国、布施天神山城から久松山鳥取城に拠点を移す。
1580年	羽柴秀吉の第1回鳥取侵攻
1581年	羽柴秀吉第2回鳥取侵攻により、吉川経家のろう城する鳥取城は落城。宮部継潤が鳥取城主となる
1600年	関ヶ原合戦後、池田長吉が鳥取城主となる
1617年	池田光政が城主となり、城下町とともに城の大改修を行う
1632年	池田光仲が鳥取藩主となる
1692年	天守が落雷により焼失
1720年	城下町の大火により鳥取城も延焼
1807年	このころ、天球丸の巻石垣が築かれる
1879年	鳥取城の建造物がほぼ解体される
1907年	扇御殿跡に仁風閣が建てられる
1944年	鳥取大地震1周年を期に、池田家から寄贈を受ける



今年作庭150周年を迎えた宝隆院庭園越しに城内を望む

鳥取城跡データ

【国史跡指定の理由】

- ▶織豊時代から近世徳川時代に移行する転換期の歴史に深い関係を持つ史跡であること
- ▶城跡の構成が、山城的形式を残す山上ノ丸と中腹の砦群等の古い城跡遺構に対し、近世的城郭形式を残す山下ノ丸を中心とする新しい城跡遺構が新旧重層して併存すること等が学術的に高く評価されること

【指定の範囲】

久松山ほぼ全山と太閤ヶ平 968.324 平方メートル

【指定の経緯】

- ▶昭和32年12月18日
鳥取城跡のある東町地内と太閤ヶ平のある滝山・百谷地内 668.663 平方メートルが史跡に指定される
- ▶昭和62年8月10日
円護寺側 299.661 平方メートルを追加指定。久松山ほぼ全山が史跡となった。

取城跡は太閤ヶ平（兵糧攻めの際に羽柴秀吉がいた本陣跡）と共に国の史跡に指定されています。

なぜ建物は残っていないのか

明治時代に入ると旧藩主所有の城郭は政府によって国有化され、政府は城跡を財源として売却したり、軍事施設として使用したりしました。明治6年、軍事的な必要性が認められた鳥取城は、二ノ丸三階櫓や三ノ丸御殿などが軍の

「日本にかくれなき名山に築かれた城」

山陰海岸ジオパークのジオスポットでもある久松山。大地が育んだ急峻な地形を持つ山並み、そして山頂からの眺めは、多くの人々たちを楽しませていきます。

この山に城が築かれたのは戦国時代のこと。歴史的に著名な羽柴（後の豊臣）秀吉の兵糧攻めに対した名將・吉川経家は、防御性や眺望に優れたこの山を「日本にかくれなき名山（一番素晴らしい山）」と称しました。

このころまでの鳥取城の姿は、自然地形を巧みに利用し、

国史跡「鳥取城跡」は、久松山にある本市市街地の景観的・歴史的シンボルです。この街の宝といえる鳥取城を守り、その価値を次の世代に広く伝えていくために、史跡の保存整備計画が進められています。

問い合わせ先 第二庁舎文化財課 ☎0857-20-3359

街を一望できる絶景と国内唯一の石垣

鳥取城には、建物こそ残っていませんが、さまざまな見所があります。天守のあった久松山山頂からは、本市の街並みや日本海、湖山池などさまざまな景色を楽しむことができます。また、春の桜、秋

施設として再利用されました。しかし、日本最後の内戦とされる西南戦争が終結すると、国内の治安が安定。軍事上の必要性が無くなった鳥取城では、明治12年、残された建造物のほとんどが解体されました。明治22年、三ノ丸跡は陸軍によって鳥取県に無償貸与され、鳥取県尋常中学校（現・県立鳥取西高等学校）が移転新築。翌年、再び鳥取城は池田家の所有となり、明治40年には、現在は国の重要文化財にも指定されている仁風閣が竣工しました。

昭和19年、池田家は鳥取大地震1周年記念事業として市に久松山全体を寄贈。鳥取城は名実ともに市民の城となりました。

山を削るなどして造られた「土の城」でした。よく知られた「石垣の城」としての姿は、秀吉の重臣として活躍した宮部継潤の時代に整備が始まり、世界遺産で著名な姫路城を築いた池田輝政の弟・長吉や輝政の孫・光政の時代の拡張を経て、今日残る城跡の景観が整いました。その後の鳥取城は、江戸幕府の許可を得ながら鳥取藩32万石の居城として、各時期に応じて必要な整備が行われてきました。

このような歴史的経緯を持つ鳥取城跡には、さまざまな時代の遺構が残っています。これらの学術的価値が高く評価され、昭和32年に、鳥

山を削るなどして造られた「土の城」でした。よく知られた「石垣の城」としての姿は、秀吉の重臣として活躍した宮部継潤の時代に整備が始まり、世界遺産で著名な姫路城を築いた池田輝政の弟・長吉や輝政の孫・光政の時代の拡張を経て、今日残る城跡の景観が整いました。その後の鳥取城は、江戸幕府の許可を得ながら鳥取藩32万石の居城として、各時期に応じて必要な整備が行われてきました。